

2019年(令和元年)12月12日(木曜日) 経 済

土佐沖メタン詳細調査を 県内組織 公募に提案

活動支援会社 来年設立

官民でつくる「土佐沖メタンハイドレート
実用・商用化プラットフォーム研究会」代表
世話人・小川雅弘・土佐経済同友会代表幹
事)は11日、独立行政法人「石油天然ガス・
金属鉱物資源機構」が行った新規調査案件の
公募に対し、土佐沖のメタンハイドレートを
応募したと発表した。調査活動などを支援す
る県内目的会社も2020年に設立するとし
ている。

(小笠原敏浩)

土佐沖に存在するメ
タンハイドレートの実
用化は土佐経済同友会
が2015年に提言書
を作成。代表幹事だっ
た小川氏ら有志が取り
組みの具体化に向け
て、昨年3月に設立し
た同研究会で可能性を
検討している。

実用化には精度の高
い適地調査が前提とな
る中、石油、天然ガス

実際の調査には、地
元の支援体制も必要に
なるとして、実用化を
念頭に以前から構想の
あった目的会社を、県
内の産学官民で来年中
に設立することを決
定。提案が採択される
かどうかは未知数だ
が、採択されれば調査
を経て試掘、生産試
験、実用化を順次要望
していくとしている。

小川氏は「メタンハ
イドレートが世界で初
めて実用化できればエ
ネルギーの自給、大き
な産業の創出につなが
る。時間はかかるかも
しれないが、これだけ
ポテンシャルのあるテ
ーマは他になく、今か
ら取り組みを進める意
義はある」と話してい
る。